

午後 試験

本年度は、“論述の対象とするプロジェクトの概要”の記述内容の不備が目立った。解答を理解するための重要な情報であり、またプロジェクトマネージャとしての経験が表現されるので、的確に記述してほしい。

本年度の試験から、設問ウでは論述内容をより具体的に表現するような問い方をした。中には設問イと設問ウの論述の重複や、設問ウに論述すべき内容を設問イに論述しているような解答も見られた。また、答案用紙の解答欄が設問ごとに指定されていたが、これに従わずに、設問イの論述に続けて設問ウの解答を論述したり、解答字数の指定を守らなかったりした論述も見られた。問題冊子の注意事項、設問の要求内容をよく理解して解答してほしい。

各問に共通した点として、設問アではプロジェクトの特徴に対して、システムの特徴を記述する論述が多かった。また、問 2、3 においては、設問イ、ウでは開発者の視点からの論述が見られた。求められているのは、プロジェクトに関するプロジェクトマネージャの視点からの論述であることをしっかり認識してほしい。

問 1 (システム開発プロジェクトにおける動機付けについて) では、プロジェクトの立上げ時にメンバに対して行った動機付け、及びプロジェクト遂行中にそれを維持・強化した経験がうかがえる論述が多かった。しかし、立上げ時にメンバとの意見交換や同意がなく、プロジェクトマネージャからの一方的な動機付けや、遂行中に維持・強化した内容が立上げ時の内容と異なる論述も見られた。

問 2 (設計工程における品質目標達成のための施策と活動について) では、システム開発プロジェクトの経験を踏まえた具体的な論述が多かった。しかし、設計工程以外についての論述や、システムの品質目標と品質を作り込む施策との関連がうかがえない論述、察知した問題点の対処だけに終始し品質を作り込む施策の改善に言及していない論述も見られた。

問 3 (業務パッケージを採用した情報システム開発プロジェクトについて) では、業務パッケージの標準機能をできるだけ適用し、外付けプログラムの開発を必要最小限に抑えた経験がうかがえる論述が多かった。しかし、設問で求めている、開発を必要最小限に抑えるために利用部門と合意した内容や合意に至った経緯については論述されず、開発した外付けプログラムとその必要性の説明に終始した論述も見られた。また、外付けプログラムを開発する際の工夫点について論述されていないものも見られた。